

◇2011 年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(中学校)〈抜粋〉◇

この調査は 2011(平成 23)年度に実施された中学校の修学旅行に関するもので、例年と大きく異なるのは平成 23 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災とそれにかかわっての東京電力福島原子力発電所の地震と津波による事故により、大きな影響を受けたことである。

4 月下旬から夏季休業中を除いた 9 月下旬ごろまでは中学校の修学旅行シーズンで、震災それに続く余震、東北新幹線の不通、原発事故による放射能汚染への不安さらには電力不足による計画停電の実施等により、東京を主とする首都圏や東北地方への修学旅行は行き先変更もしくは延期となり、甚大な影響を受けた。

さらに、それだけでなく放射能汚染の不安をあおる風評被害も大きく、保護者等の対応に多くの時間をとられた学校も多くあったと聞く。

しかしながら、これほどの状況下にあったが修学旅行を全く中止した学校は被災地も含めてごく少数で実施率は 94.4%を数え、修学旅行が日本人にとり欠くべからざる行事であることを示したといえる。

調査は全国の国立・公立・私立等の中学校 10,657 校に対し、2,344 校を抽出し調査を実施した結果、814 校から回答があった。回答率は 34.7%である。

調査項目は次のとおりである。

- (1)実施状況(2)不参加生徒の有無と理由(3)実施時期(4)実施学年(5)保健指導のための引率者(6)旅行費用(7)主な交通手段(8)旅行内容(9)班別自主行動(10)体験学習(11)東日本大震災の影響(12)まとめ

ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細についてはデータブック教育旅行年報をご覧ください。

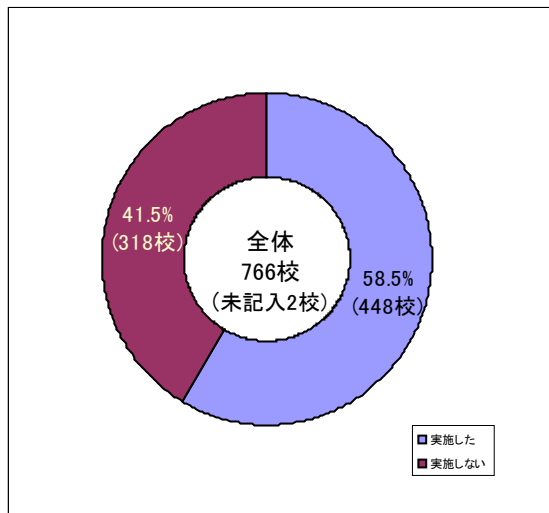
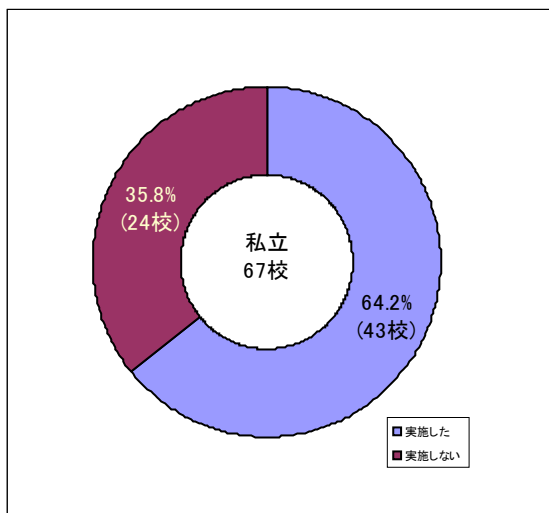
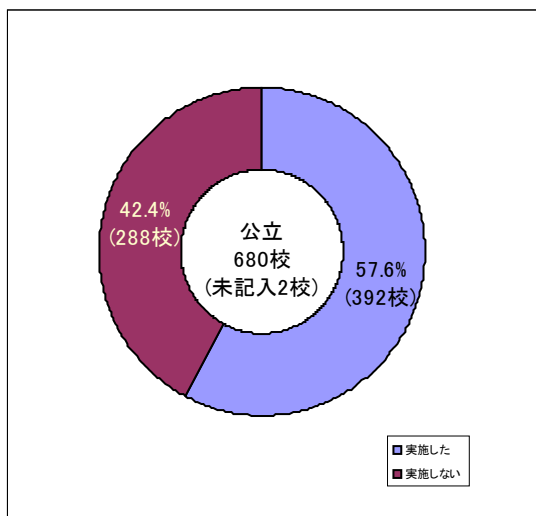
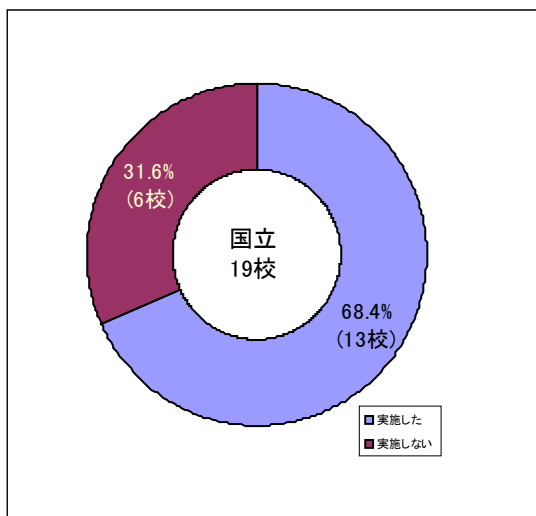
1 旅行先ベスト 20

順位	旅行先	件数	構成比(%)	前回順位
1	京都	337	20.7	1
2	奈良	266	16.3	3
3	大阪	188	11.6	6
4	東京	112	6.9	2
5	千葉	91	5.6	5
6	沖縄	82	5.1	4
7	長崎	81	5.0	7
8	兵庫	74	4.6	15
9	福岡	67	4.1	9
10	北海道	63	3.9	8
11	広島	49	3.0	10
12	神奈川	33	2.0	9
13	熊本	31	1.9	14
14	長野	22	1.4	13
15	佐賀	14	0.9	13
16	滋賀	13	0.8	—
17	山梨	10	0.6	17
17	山口	9	0.6	—
19	青森	6	0.4	17
20	栃木	5	0.3	—
その他		69	4.3	
合計		1,622	100	

今回の調査カウント方法は、滞在時間に関係なく旅行先を「1」としたため、前回調査より総件数が減少しているが本来の実数が把握できた。その中で震災や原発事故の影響もあり以下のような変化があった。上位の京都府・奈良県は変動がなく、東京都・千葉県は激減した。(註 日本修学旅行協会名古屋事務所が愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県私学協会ならびに各校長会の協力のもと行う愛知県下の国公私立、小・中・高等学校「修学旅行実施状況調査」では、名古屋市内の中学校101校が東京を中心とした首都圏を予定していたが、震災と原発事故の影響によりそのうちの58校が関西方面に変更した。間際の変更や都内自主研修・漁村体験を計画している学校があったため、旅行先を大阪市・神戸市・淡路島・琵琶湖周辺に変更した。)

2 体験学習実施率

体験学習実施率は、全体で58.5%と前回の2009(平成22)年度調査結果の59.2%より0.7%減少しているものの、ほぼ変わらない状況である。



閑谷学校講堂学習(岡山県・備前市)



角突き牛の散歩(新潟県・小谷市)

3 旅行内容

順位	旅行内容	国立	公立	私立	全体	全体
		件数	件数	件数	件数	構成比(%)
1	遺跡・史跡・文化財・寺社等の見学	10	431	47	488	26.9
2	伝統的町並みや建造物群保存地区の見学	2	178	13	193	10.6
3	平和学習	9	135	27	171	9.4
4	伝統工芸等ものづくり体験(無人島体験・洞窟体験等含む)	3	127	10	140	7.7
5	自然や野外活動体験	0	95	13	108	6.0
6	博物館等の見学	1	88	8	97	5.4
7	職場訪問・職場体験	2	69	2	73	4.0
8	産業や産業遺産の見学	1	50	7	58	3.2
9	ミュージカル・演劇等の鑑賞	2	54	1	57	3.1
10	伝統文化・伝統芸能や祭り体験(香道・舞妓・着付け・三味線・ペーロン・エイサー等含む)	3	46	4	53	2.9
11	その他のスポーツ(ラフティング・カヌー・熱気球・トレッキング・乗馬等含む)	0	46	4	50	2.8
11	宗教体験(座禅・法話・写経等)	0	42	8	50	2.8
13	環境学習体験	1	25	7	33	1.8
13	料理・食品加工体験	0	31	2	33	1.8
15	歌舞伎・文楽・能楽等の鑑賞	0	26	6	32	1.8
16	美術館等の見学	0	18	3	21	1.2
16	スキー・スケート(スノーボード・スノーシュー等含む)	0	14	7	21	1.2
18	いなか暮らし体験	3	11	2	16	0.9
18	漁業(釣り含む)	1	14	1	16	0.9
20	農業	1	9	1	11	0.6
21	学校見学(大学・専門学校等)	0	7	1	8	0.4
22	国際交流(外国人・留学生との交流)	0	6	1	7	0.4
23	酪農	0	1	1	2	0.1
23	ボランティア体験	1	1	0	2	0.1
23	販売・商業体験	0	2	0	2	0.1
26	林業	1	0	0	1	0.1
26	介護福祉体験	0	1	0	1	0.1
26	コンサート・音楽の鑑賞	0	1	0	1	0.1
—	その他	0	64	1	65	3.6
	合計	41	1,592	177	1,810	100.0

今回の調査結果においても旅行先の第1位は京都府である。その結果、遺跡・史跡・文化財・寺社等の見学が連続第1位となっている。それ以外の内容において順位が移動した項目をみると、「自然や野外活動体験」は前回9位、今回は5位、またキャリア教育の一環として行われている「職場訪問・職場体験」は前回14位、今回は7位である。また、「伝統文化・伝統芸能や祭り体験」は前回13位、今回は10位、件数は少ないが「いなか暮らし体験」は前回22位に対し今回は18位とそれぞれ順位を上げている。近年、全国の農山漁村で、修学旅行などの児童・生徒を受け入れ、地域の人々との交流とふれあいをテーマに、暮らしや文化さらに農林漁業体験等を軸にさまざまな取り組みを行ないこうした地域を歩き先とする学校が増加している。児童・生徒を受け入れる農山漁村は、北は北海道から南は沖縄県まで全国各地で取り組みを展開しており、因みに、全国で約140ヶ所にのぼる小学生を対象とした「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受け入れモデル地区でも、小学生と合わせて中学生の受け入れを行なっている地域が多い。